

# 科目 野外実習 (Field Practice)

担当教員 佐藤 浩之、大谷 真志、清本 正人、林 紀男、岡西 政典

## 【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

生物分子科学科では生体内の物質の構造と機能の面から生命現象を理解することを目標としているが、そこでの教育・研究は環境との関わりの中で形成された生物の多様性への理解と、自然と生命への深い畏敬の念を根底にして進められる。本実習では実際に野外に出て、様々な自然環境の中で生物に直接接する事により「生き物」と「自然」への理解を深める。

<教育目標>

- (1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ
- (2) 自ら主体的に学ぶ力をもつ
- (3) 他者と協力して課題を解決する力をもつ

<具体的な項目>

- 専門分野における十分な基礎知識・基本技能 (1)  
問題を多角的に把握し、問題解決に必要な知識・技能を同定し、不足する知識・技能を自覚し、自ら獲得できる力 (2)  
コミュニケーション能力・リーダーシップ、外国語を含む文章の読み書き能力 (3)  
多様性を受け入れる態度 (3)  
自然に対する畏敬の念、生命の尊重、人間としての謙虚な心をもつこと (3)

## 【2】 授業計画

実習先は、東京大学附属臨海実験所（神奈川県三浦市）、お茶の水女子大学湾岸生物教育研究センター（千葉県館山市）、千葉市少年自然の家（千葉県長柄町）の予定。

実習先により実習内容は異なるが、いずれも2泊3日の日程で集中実習を行なう。

事前に実習先ごとにガイダンスが行われる。掲示に注意し、実習参加者は必ずガイダンスに出席すること。

## 【3】 到達目標

野外実習は3カ所の実験所のなかから1カ所を選んで参加する。

館山： 代表的な野外生物の分類や同定ができる。プランクトンの採集法を実践する。刺皮動物の発生の観察とステージの同定ができる。

長柄： 代表的な野外生物の分類や同定ができる。植物や昆虫の生態観察を実践する。

油壺： 代表的な野外生物の分類や同定ができる。プランクトンの採集法を実践する。ドレッジ採集やメイオベントス採集を実践する。

## 【4】 授業概要

夏期休暇中に集中形式で行う。臨海実験所などを拠点として磯浜生物の観察やプランクトンの観察、ウニの発生の観察、または山や湖を巡って動植物の観察やその土地の地形の形成と生物相の遷移を実験する等、実習地によって内容が異なる。履修希望者は以下の実習地から1つを選んで参加する。実習は2泊3日である。

- 1 館山： お茶の水大学湾岸生物教育研究センター（大谷真志・清本正人）
- 2 長柄： 千葉市少年自然の家周辺（林紀男）
- 3 油壺： 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所（佐藤浩之・岡西政典）

## 【5】 準備学習（予習・復習）および必要時間

基礎進化生物学の講義内容を再確認する（予習）

実習で観察した生物の分類や生態などを図鑑等で確認する（復習）

## 【6】 教科書・参考書・参考資料

実習地毎に教員が作成したテキストを配布する。参考書はテキスト中に記載されているものもあるが、メディアセンターの図鑑類を大いに活用すること。

## 【7】 評価方法およびフィードバック

実習態度（20%）およびレポート（80%）により評価する。スケッチなどのレポートはコメントをつけて返却する。

## 【8】 オフィスアワー

佐藤：火曜日1限、林先生に連絡を取りたいときは佐藤まで。

大谷：月曜日4、5限

## 【9】 関連科目

〔予め学んでおくとよい科目〕

基礎進化生物学（2016年度以降入学生用）

〔この科目に続く内容の科目〕

特になし

**【10】その他**

実習地の配属先を決定するにあたり、人数や男女比の調整を行うため、第一希望ではない実習先に配属となる場合がある。詳細は掲示による。

また実習は秋学期科目であるが夏期休暇中に実施されるため、履修登録期間よりも前に実習が行なわれることとなる。実習に参加した学生は必ず履修登録をすること（例外は認めない）。